

ようこそ私立幼稚園へ

神奈川県私立幼稚園連合会で発行している会報「神私幼」父母の会版を加盟園保護者の皆様にお届けします。

より多くの父母の貴重なご意見を尊重し、
参加しやすい環境づくりを目指して

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会

会長 寺尾 康子



本年度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会会長を務めさせていただきます寺尾康子と申します。

役員就任について、周りからは「例年のこと知らないのによくやるね」「普通やらない」と言われましたが、私の両親も私が幼少期の頃には町内会やPTAの活動に積極的だったことから、思えば親と同じことをしているなと感じます。

入園当初は自分と一人娘のことしか考えておらず、早く幼稚園に慣れるよう、ママ友との話題づくりや情報提供ができればと思い役員に立候補いたしました。しかし、入園後この数ヶ月間で様々な方と仲良くさせていただくにつれ、娘の保育・教育環境だけでなく、娘と仲良くして下さるお友達やお友達のママが、より良い環境で健やかに過ごせるようにと願うようになりました。それは園や各役員会であたたかい言葉をいただけたことがきっかけとなり、私の活気に繋がったからです。

それからはただ前に行くだけでなく、皆さまの貴重なご意見を尊重し、多くの父母が参加しやすく、かつ幼児教育のより良い環境づくりに繋がるようなお手伝いができればと考えるようになりました。

研修大会につきましても、今年度の実施に向け、多くのご意見・ご質問をいただき深く感謝しております。今年の研修大会も、コロナの懸念からYouTubeのLive配信での開催が決定いたしました。会場での率直な感想をうかがったり、皆さまの表情を拝見できないのは残念ですが、より多くの方々からのご視聴・ご感想・ご意見いただけたらと思います。

父母の会を通して、県内多様な幼稚園環境とそれぞれのお考えがあることを改めて実感し、また、会長という重責を認識し、気が引き締まる思いであります。浅学非才の身ではありますが、皆様のご指導ご鞭撻のもと全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願ひ致します。

コロナ禍を乗り越える幼稚園

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

会長 小澤 俊通



新型コロナウイルスの感染拡大による日常生活への影響は間もなく二年になろうとしています。社会生活は勿論、幼稚園においても感染防止対策が優先され、様々な行事の運営を見直さざるを得ない状況でありました。神奈川県を始め各自自治体のご配慮により、毎日子ども達と接している先生方に対して、優先的にワクチン接種を進めて頂きました。ようやく10月に入り、感染者が減少し、少しは落ち着きを取り戻している感じがあります。それでも第六波への備えも必要であり、気の抜けない日々であります。

このような状況にあっても、お子様は元気に幼稚園に通っておられることと存じます。子ども達は小さな心で一日一日を乗り越え、与えられた環境の中で伸び伸びと過ごしていることでしょうか。それは何と素晴らしい事ではないでしょうか。人生のスタートラインに立ち、力強く歩んでいる子ども達に大きな拍手を送りたいと思います。

さて、神奈川県内には約700の幼稚園と幼稚園由来の認定こども園があります。その内9割以上が私立の幼稚園・認定こども園です。さらに在園している園児の95%以上が私立幼稚園・認定こども園の園児です。つまり、県内の幼児教育は、ほぼ私立幼稚園が担っていると言っても過言ではありません。

保護者の皆様は、それぞれの家庭の教育観とお子様の姿に合わせて、通われる私立幼稚園を選ばれました。毎日の幼稚園生活から、この幼稚園にして良かったと思われていることでしょうか。しかし、そのような教育環境を支える保護者の経済的な負担は決して軽いものではありません。その負担を大幅に軽減するべく、「幼児教育の無償化」は実施されました。長年の要望活動が実現したことは大きな喜びであります。

文部科学省の調査で、幼稚園に通うご家庭の42%は母親も仕事を持っている事がわかりました。母親の働き方は様々ですが、今の社会では「働いていても幼稚園へ」の流れは自然のものとなりました。認定こども園は保育機能も備えており、働くお母様の応援団です。また、ほぼ全ての幼稚園が「預かり保育」を実施し、その充実に努めています。お子様との時間を大切にしながら、幼稚園という良質な幼児教育を実感して頂ければ幸いです。

やがて子ども達は成長するにつれ、親から離れて自立していきます。今は大変でも、後で振り返ってみると、「子育て」の時間はどれほど貴重であったか気づかれる事でしょう。どうぞ、「子どもは子どもの中で育つ」ことを信じて、毎日の子育てを楽しんで下さい。これからも、「コロナ禍を乗り越える私立幼稚園」を応援して下さることを、心からお願い申し上げます。

県父母連委員総会報告

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が6月17日にかながわようちえん会館会議室で開催され、令和3年度常任委員が下記のとおりに出選されました。よろしくお願ひいたします。

令和3年度 父母連常任委員名簿

役職	氏名	園名(協会)
会長	寺尾 康子	みゆき幼稚園(川崎)
副会長	松本 亜由美	野毛山幼稚園(横浜)
	// 眞榮城エリサ	潮田幼稚園(横浜)
会計	木下 千恵	ゆりかご幼稚園(川崎)
	// 三井 侑子	友愛幼稚園(小田原)
委員	吉田 杏菜	桂幼稚園(横浜)
	// 佐久間英美子	清心幼稚園(県央)
	// 神山 文里	鎌倉しろやま幼稚園(鎌倉)
監事	若山 優子	根岸幼稚園(横浜)



コロナによって変わるもの変わらないもの

～子どもの笑顔と強く健やかに育つことを願って～

講師

一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事/東京大学名誉教授

汐見稔幸先生

澄みわたる秋空の下、今年度も昨年同様 YouTube ライブセミナーでの研修大会が開催されました。早朝にもかかわらず県内全域より大変多くの会員の皆様にご視聴いただき、誠にありがとうございました。

はじめに、父母連・寺尾康子会長より、子どもを取り巻く厳しい状況の中で子どもたちの笑顔と健康を守るための環境作りに向けた挨拶があり、続いて県連・小澤俊通会長より挨拶がありました。また、ご来賓の私学振興課長・山中毅様より「未来を担う子ども達のために更なる子育て支援の拡充を」とのお言葉を頂戴し、次世代育成課長・川上亮様には「全ての子どもが安心して暮らしていけるような環境を作っていきたい」との心強いお言葉を頂きました。改めて、私たちの子育てには、多くのご支援とご協力があって成り立っているものだと思われ、感謝致しました。

幼児教育のさらなる発展を願う宣言をもって開会式が終了し、NHK Eテレ「すくすく子育て」でおなじみの汐見稔幸先生による講演が始まりました。

昨年の春から私たちを襲ったコロナウイルス感染拡大で、子どもたちとの生活も変化し、幼稚園の多くの行事も中止せざるを得ない事も多かったと思います。今研修大会では、先生の楽しいエピソードと共に「コロナと闘いながら、上手に付き合いながらこれまで以上に生活が楽しいものとなるよう、どのように過ごすとよいのか」を様々な視点から教えて頂きました。

子どもは自分がこれから生きていく社会を漠然と考えているそうです。コロナ禍で保護者が神経質になりすぎて、子どもが今まで気兼ねなくやっていたことに制限をかけてしまうという事も起きているのではないのでしょうか。子どもは理屈よりも感覚で生きていて、コロナ禍の影響で不安を抱えている子どもも増えているそうです。

では、「どのようにすれば子どもの不安を取り除いてあげることができるのか」ですが、子どもの心(脳)にオキシトシンという幸せホルモン(脳内ホルモン)を増やしてあげることが大切だと仰っていました。

子どもの嬉しいこと、楽しいこと、悔しいことに共感し、生まれてきてくれてありがとう、と抱きしめてあげることで、この幸せホルモンは分泌されるそうです。なるべく丁寧にその状態を作ってあげることで、子どもは不安な気持ちから解放されると教えて頂きました。

ヨーロッパでは、夕方で勤務が終了するため、夕方から家族との時間を楽しむ事ができるそうです。日本でもコロナ禍での在宅勤務の増加により、家庭文化作りの可能性の増大につながると教えて頂きました。家族みんなで料理をしたり、楽器を演奏したり、自然の中で何かを発見したり、小さな頃から様々な「文化」を体験させてあげることが大切だそうです。先生のご家庭でも週末は山へ行き自然を楽しむことなどを文化として取り入れていたそうです。出来た喜びを感じさせてあげることや、「手間暇かけてよりよく作ること」を子どもと一緒に取り組むことが、家族の幸せにつながるとお話下さいました。

また、今日のITの進歩によりAI社会で生

きる子どもたちですが、コロナ禍でネットやゲーム、タブレットの使用頻度に頭を悩ませている保護者の方も多いと思います。最近では依存してしまう子どもは以前より減ってきていて、そのことによって他の事が劣るという事はほとんどないそうです。ICT環境でアートの世界を楽しんだり、キーワードを入れて検索したり、オンラインで遠くに住む友人との気象情報交換に利用するなど、使い方を工夫して自分で調べ体で感じ、上手に付き合ってもらいたいと仰っていました。

AI社会で生きる子どもたちを育てるうえで大切な事を3つ教えていただきました。

- ①**手仕事力、文化を体に刻み込むこと。**料理や絵画、ピアノ、ダンスなど、上達したことを一緒に喜び合い、技を次の世代に伝えていくこと。
- ②**人との関わり力、気さくさ、人の役に立ちたいと思うこと。**子どもは小さい時から「親に深く愛されている、信頼されている」と思うことで人間関係を築いて行けるようになる。人の役に立ちたいという思いを膨らませ、共感能力を養ってあげること。
- ③**問いと答えの間の充実、答えのない世界を楽しむこと。**人間は試行錯誤があることで学ぶ。そしてその時間を楽しんで自分なりの考えを持つこと。そしてこれからの時代は、非認知的スキルが問われていくとのこと。

リーダーシップ、落ち込んでいる人を励ます、まとめることのできる人は好奇心の高い人、感情コントロールスキルの高い人だと教えて頂きました。幼稚園でも家庭でも、子どもの自主性や自発的な活動を増やしてあげると良いそうです。

さらに「善く見れば善く育つ」という言葉を教えていただきました。性格についても、見る角度によってはその子の持ち味となり社会にとっても必要な人材になり得るそうです。これから生きていく多様な社会に適応していくためには、子どもの個性を大事にしてあげることが大切だということも改めて再認識しました。

最後に、汐見先生の講演で心に響いた言葉があります。

『どんなに忙しくても、食事の時間だけは急かしたり怒ったりしないこと』。食事の時間に家族みんながその日あったことを話すことで、絆がものすごく深まるそうです。「今日は何を話そうか？今日は何が楽しかったのか？」を考え語りあうことで、楽しさも増し子どもにも関心を示すことができ、家族みんな心豊かになる。とても素敵なお話だと思いました。

今研修大会で多くの事を学ばせて頂きました。忙しさに追われ、ただ漠然と過ごす毎日でしたが、子どもが強く健やかに育つことを願い、子どもがこれから出会うたくさんの人と気さくに関わること、個性を大切に伸ばしていくこと、AI社会ではできないことこそ大切に、家庭でも実践していきたいと思いました。そして、子どもの思いに共感し、一緒に考えることのできる母親でありたいと強く思いました。

この機会に感謝すると共に、今後の子どもたちと過ごす時間にお役に立てていただければ幸いです。

(文責/神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 三井侑子)



教育相談事業 できることも出来ません

子どもが今までできなかったことができるようになる、成長の証として親は嬉しいですね。でもそうすんなりとはいかないことがあります。

例えば手洗いです。年少の男の子で帰宅後に手洗いをしない子がいました。幼稚園では模範的に手洗いをしています。水が嫌いなわけでもなく、コロナもあってお母様はとても心配です。さて、なぜでしょうか？おそらく切り替えの悪さがあると思われる。幼稚園では一連の流れに乗って手洗いが可能で

も家庭では自分で手洗いモードに切り替えなくてはなりません。それが難しい。「めんどくさい」と表現するかもしれませんが。しかし本当は面倒ではなく自力ではなぜか「できない」のです。これは分かりにくいです。「洗う」というスキルは獲得してはいる幼稚園ではそのスキルを使っているのですから。甘えていると非難される場合もあるでしょう。でもこの場合は甘えて「しない」のではなく「できない」のです。もうしばらく脳の成熟を待つ必要があります。



教育相談員
鈴木敦子先生
(臨床発達心理士)

- **形態** 教育相談に係る講演および幼稚園への出張相談、及び電話相談、面談。(面談による相談は「ようちえん会館」にて行います。)
- **実施曜日** 毎週 火曜日 10:00~12:00
毎週 木曜日 14:30~16:30
巡回相談及び講演(要相談)
- **相談費用** 無料
- **相談申込** 電話またはホームページから、神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申込みください。



TEL. 045-440-3210

<http://www.shinshiyou.com/education.html>